

琉球近海におけるトビイカ *Symplecteurhis oualaniensis* (LESSON) の外套長、体重組成について

資源調査室 当真 武

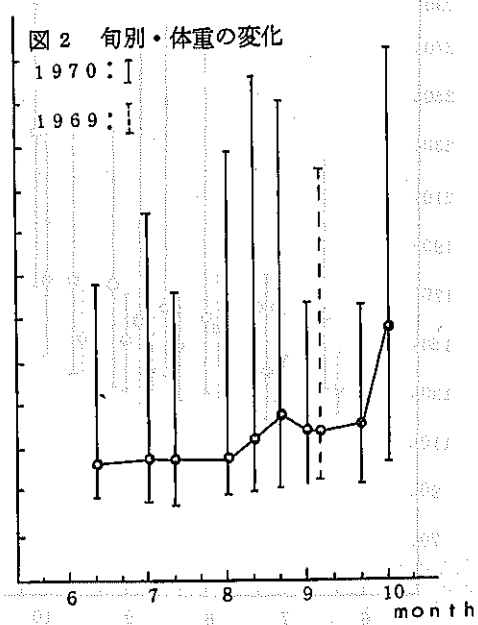
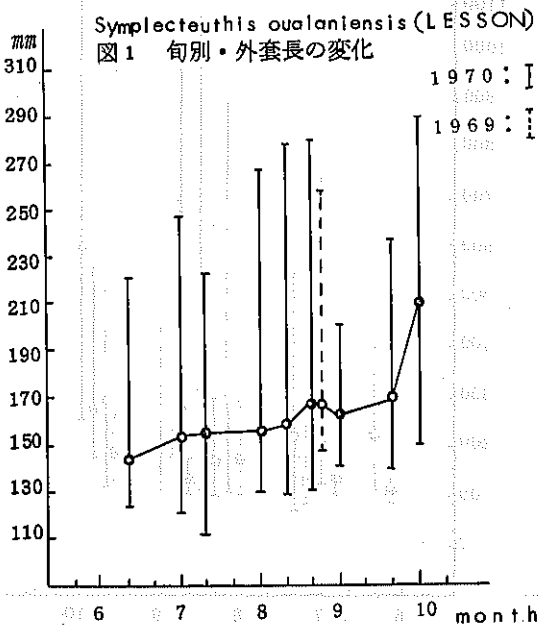
漁業生産の安定を図るためには、各々の魚の生活史や生活環境の研究が必要であるが、まだ充分でない面が多い。琉球近海で多獲されるトビイカの外殻長、体重組成について漁期を通りしての調査はこれまでない。この意味からイカ釣り業で漁期始めの1970年6月から1970年10月下旬にかけて調査した。その概要を報告する。

方法

1970年6月から11月まで毎旬、糸満漁協の漁獲物から取得した約10kgのトビイカと1970年5月から同年11月まで調査船、図南丸およびくろしお、によって漁獲されたトビイカについて測定した。結果は以下の図に示すとうりである。

外套長—6月下旬、146±17.73 (mm) 7月下旬、159±22.84 8月下旬、162±30.77 9月下旬、163±13.91 10月中旬、216±37.75であった。漁期始めから漁期終りにかけて次第に大きくなり、10月に入り著しく大きな個体がみられた。また各漁期を通りして小さい個体が観察された。(図1)

体重—6月下旬、178±166.12 (g) 7月下旬、189±96.78 8月下旬、228±203.31 9月下旬、212±64.91 10月中旬、482±241.32となり、外套長と同様な傾向を示した。(図2)



次に雌雄別の外套長、体重の測定結果は図4、5に示す通りである。トビイカの雄は第4左腕が長く、その1/3には吸盤がないので雌雄の判別は容易に見分けられる。(図3)雌雄の特徴を示す形質は他にもあるが詳しくは研究報告で述べたい。



記号説明

I : 腕    II : 頭    III : 外套長  
 ♂ : 雄    ♀ : 雌

図4 雌雄別・旬別・外套長の変化

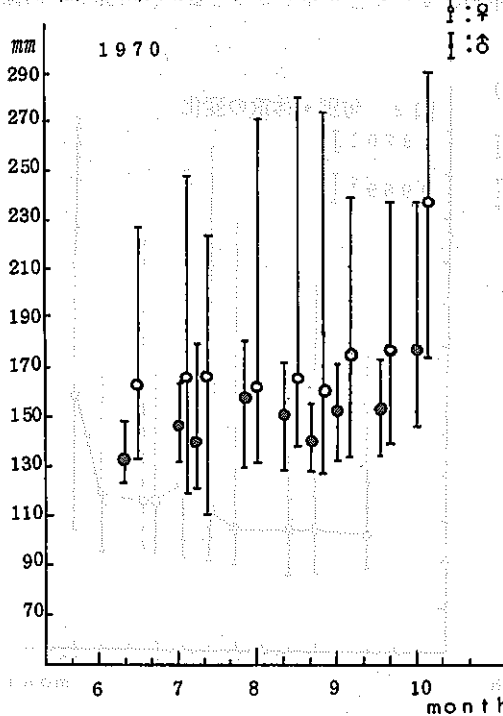


図5 雌雄別・旬別・体重の変化

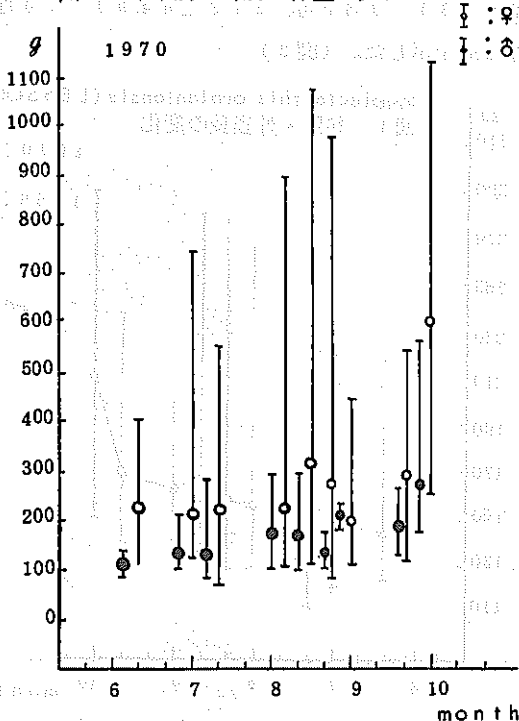


図6 トビイカの月別、雌雄別 外套長組成 1970

